

2020年度前期 学部授業アンケートのサマリー

1 はじめに

平素は本学のFD活動に御支援・御協力いただきありがとうございます。オンライン授業への対応という大変な状況にもかかわらず、先生方に御協力いただき、その結果、大きな混乱なく授業アンケートを実施することができました。今学期は、初の本格的なオンライン授業ということでしたので、オンライン授業の満足度への影響に焦点を当ててサマリーとしてまとめました。

2 実施状況

はじめに、アンケートの回収率を表1に示します。

科目ベースでの実施率（全科目数に対するアンケートを実施した科目の割合）は97.9%で、2019年度前期の97%を上まわりました。ただし、ここでは回答が1件でもあった場合には、その科目はアンケートを実施したとして計算しています。

回収率（履修登録者延べ数に対する回答数の割合）は74.8%となり、2019年度前期の80%を下まわりました。オンデマンド授業では、対面授業のように授業中にアンケートを入力する時間を設けられなかったことが原因として考えられます。よって、対面授業の数が増える後期には回収率が上がることを期待できます。さらに回収率を上げるために、特にオンライン授業を続ける先生におかれましては、引き続き授業アンケートに答えるよう、学生への御指導よろしく申し上げます。

表 1: アンケートの実施率・回収率

	実施率 [%]	回収率 [%]
2019年度前期	97	80
2020年度前期	97.8	74.8

3 要約統計量

次に、要約統計量を表2に示します。設問11以外は、そう思う→5、まあそう思う→4、どちらとも言えない→3、あまりそう思わない→2、そう思わない→1として計算しました。つまり、数字が大きい方が良い結果となっています。設問11は学習時間についての設問ですが、4時間以上→5、3時間→4、2時間→3、1時間→2、していない→1として計算しました。わかりやすいように、比較のため、2019年度前期のものも併記してあります。2019年度前期に比べて平均値が上昇している箇所は太字にしています。

各設問の平均値を見ますと、これらは2019年度前期と大きくは変わりませんが、設問4、5以外では、平均値が上昇していることがわかります。本学では、オンライン授業は学生から好意的に受け取られていたと考えられます。また、学習時間については、2.47と2019年度前期の1.10に比べると平均で1時間から2時間増えていることがわかります。これまで学習時間が少ないのは課題でしたので、学習時間が増えたことは良い傾向だと言えます。

設問4「話し方は聞き取りやすかったですか？(話すスピード・声の大きさ・マイクの使い方)」が下がったのは、動画やライブ授業での音声のノイズなどが原因として考えられます。しかし、0.04ポイントしか下がっていませんので、平均して見れば、大きな問題は生じていなかったと言えるでしょう。設問5「学生の質問や作業・発表に対し、教員から十分なフォローやフィードバックがあったと思いますか？」が下がったのは、オンデマンド授業では学生に対してリアルタイムで対応できないということが原因としてあるのかもしれない。

一方で、設問3「板書やスクリーンに示された内容、配付資料は理解を深めるために役立ちましたか？【オンデマンド授業では「授業で使用されたコンテンツ、資料は理解を深めるために役立ちましたか？」】」が+0.12ポイントと他の項目に比べて大きく上がっています。平均して見れば、オンラインコンテンツは役に立ったと学生が考えているということがわかります。

表 2: 要約統計量

		2020 年度前期		2019 年度前期	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差
設問 1	教員は、学生達が理解しているかを確認しながら授業を進行したと思いますか？【オンデマンド授業では「教員は、毎回出す課題の確認や添削をし、学生達が理解しているかを確認しながら授業を進行(コンテンツを作成)したと思えますか?」】	3.94	1.08	3.91	1.06
設問 2	教え方について工夫がよくなされたと思いますか？	3.97	1.05	3.91	1.05
設問 3	板書やスクリーンに示された内容、配付資料は理解を深めるために役立ちましたか？【オンデマンド授業では「授業で使用されたコンテンツ、資料は理解を深めるために役立ちましたか?」】	4.13	0.99	4.01	1.03
設問 4	話し方は聞き取りやすかったですか？(話すスピード・声の大きさ・マイクの使い方)	3.96	1.10	4.00	1.03
設問 5	学生の質問や作業・発表に対し、教員から十分なフォローやフィードバックがあったと思いますか？	3.90	1.08	3.97	1.06
設問 6	受講マナーが守られるように配慮され、良い雰囲気のもと授業が行われていたと思いますか？【オンデマンド授業では「資料や授業の進め方等が事前に示され、円滑に授業を受けられるよう配慮されていたと思えますか?」】	4.09	0.98	4.07	0.87
設問 7	高い学習成果を修めてもらいたいという教員の熱意が伝わったと思えますか？	4.02	1.02	3.98	1.01
設問 8	考え方や社会的視野が広がり、学習力や探求力の向上に得るところがあったと思えますか？	4.09	0.98	4.02	1.00
設問 9	今後の学習や研究、また、将来の仕事の選択などに役に立つ内容であったと思えますか？	4.15	0.96	4.05	1.00
設問 10	あなたはこうしてこの授業を受講しようと思いましたが最も当てるものは何を1つ選んでください。	—	—	—	—
設問 11	この授業に関して授業時間以外に事前・事後学習をどの程度学習しましたか？(一週間平均。宿題や課題の実施時間も含む。)	2.47	1.10	1.00	1.13
設問 12	この授業の内容は十分理解できたと思えますか？	3.87	0.95	3.78	1.00
設問 13	シラバスに記載されている教育目標が達成できたと思えますか？	3.86	0.93	3.78	0.98
設問 14	この授業で成長したと感じる能力として最も当てはまるものを1つ選んでください。	—	—	—	—
設問 15	授業内で理解を深めるための仕組みや工夫がありましたか？最も印象的だった仕組みや工夫を1つ選んでください。	—	—	—	—
設問 16	この授業を次年度履修する学生に勧めたいと思えますか？	4.05	1.04	3.99	1.07
設問 17	この授業によって成長できたと思えますか？	4.05	0.98	3.96	1.02
設問 18	この授業は総合的に判断して良い授業であったと思えますか？	4.08	1.02	4.05	1.03

4 オンライン授業における授業満足度

さらに、オンライン授業における学生の満足度を見ていきましょう。アンケートの回収数が少ない授業を見ると満足度のばらつきが大きくなる可能性があるために、以降は回収数が20件以上の授業に限定して分析しています。

図1(a)は、2019年度前期と2020年度前期の満足度（設問18）と成長度（設問17）の授業数のヒストグラムです。2019年度前期と2020年度前期で回収数20件以上の授業数が異なりますので、比較をするために、図1(b)では各年度で回答数20件以上の全授業数で割って規格化をしています。これを見ますと、2020年度前期のものの方が、満足度、成長度が大きいところで、割合が大きいことがわかります。

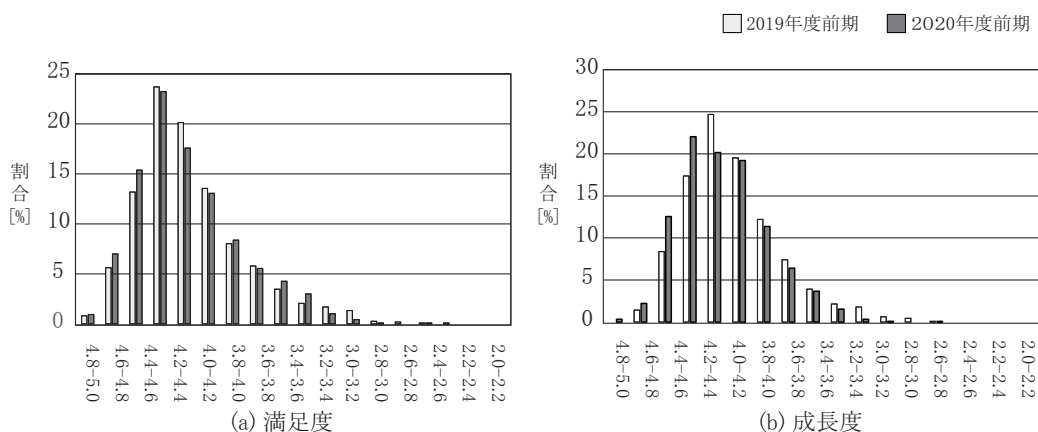


図1: 授業数の割合のヒストグラム

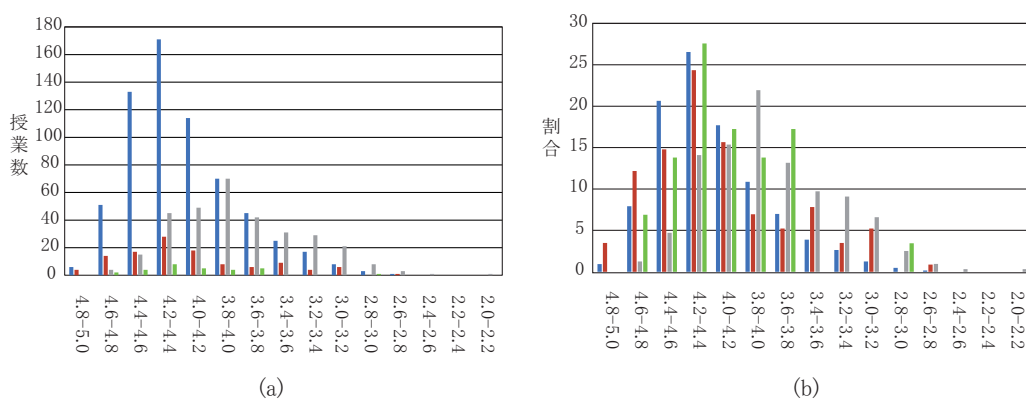


図2: 授業形式における満足度のヒストグラム (a) 授業数, (b) 割合

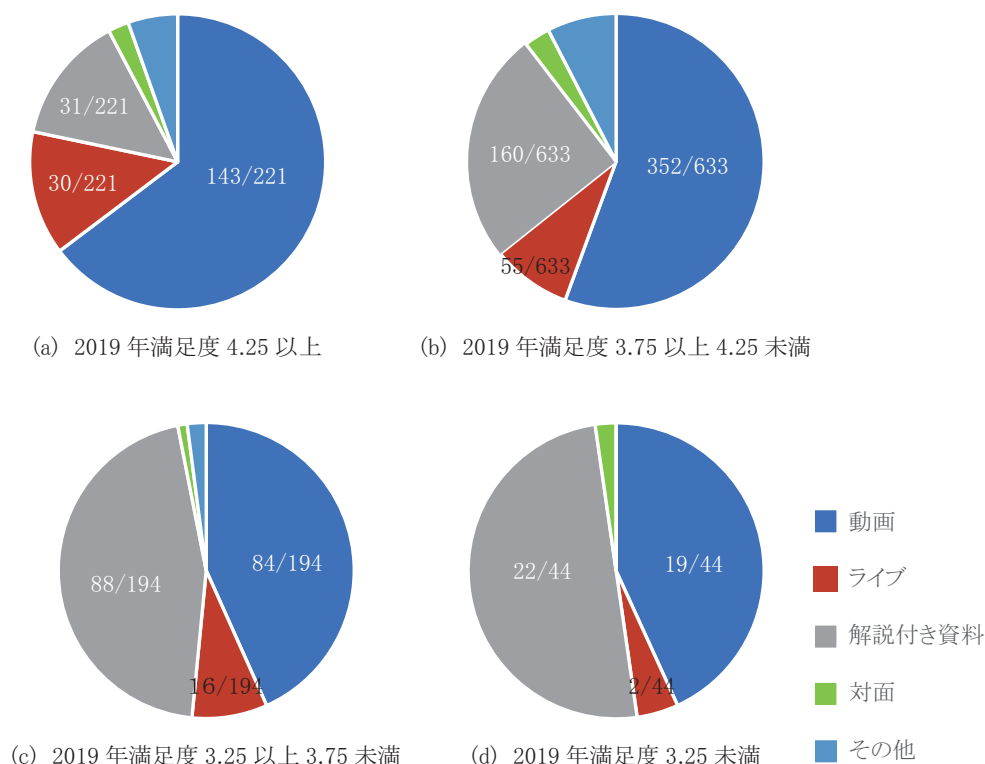


図 3: 2019 年度満足度と 2020 年度授業形態

さらに、授業形態を、「動画」、「ライブ」、「解説付き資料」、「対面」、「その他」に分け、満足度のヒストグラムに表したのが図2です。「その他」は複数の形態を取り入れているものなどであり、授業ごとにその形態は異なりますので、図2には示していません。また、授業形態は、前期に提出していただいた、6週目からの授業形態のヒアリング調査票に書かれていたものを用いています。図2(a)は授業数をそのまま示したものであり、図2(b)はその授業形態の全授業数で割って規格化したものです。これを見てみますと、動画とライブは、満足度4.2から4.4にピークを持つ似た分布になっています。一方で、解説付き資料は、3.8から4.0にピークを持つ分布になっています。対面については、主に実験・実習科目が対面で行われたことや、また実施科目数が少ないために、他のものと単純に比較はできません。

それでは、解説付き資料のオンライン授業は、なぜ、動画やライブと比べて満足度が低かったのでしょうか。それを見るために、2019年度前期について教員ごとに満足度の平均値を求めた後で、満足度の平均値が(a)4.25以上、(b)3.75以上4.25未満、(c)3.25以上3.75未満、(d)3.25未満の4つのグループに分け、それぞれどのような授業形態をとっていたかを調べました。それを円グラフにしたものが図3です。この図から、もともと満足度が低かった教員グループほど、解説付き資料を選択する割合が多くなっています。したがって、図2のヒストグラムで解説付き資料の満足度が他に比べて低かったのは、授業形態のせいではなく、もともとの満足度が低い教員であった可能性が考えられます。

さらに、縦軸を2020年度の科目ごとの満足度、横軸を教員ごとの2019年度前期の満足度の平均値とした散布図を図4に示します。(a)が専任教員のもの、(b)が非常勤教員のもの

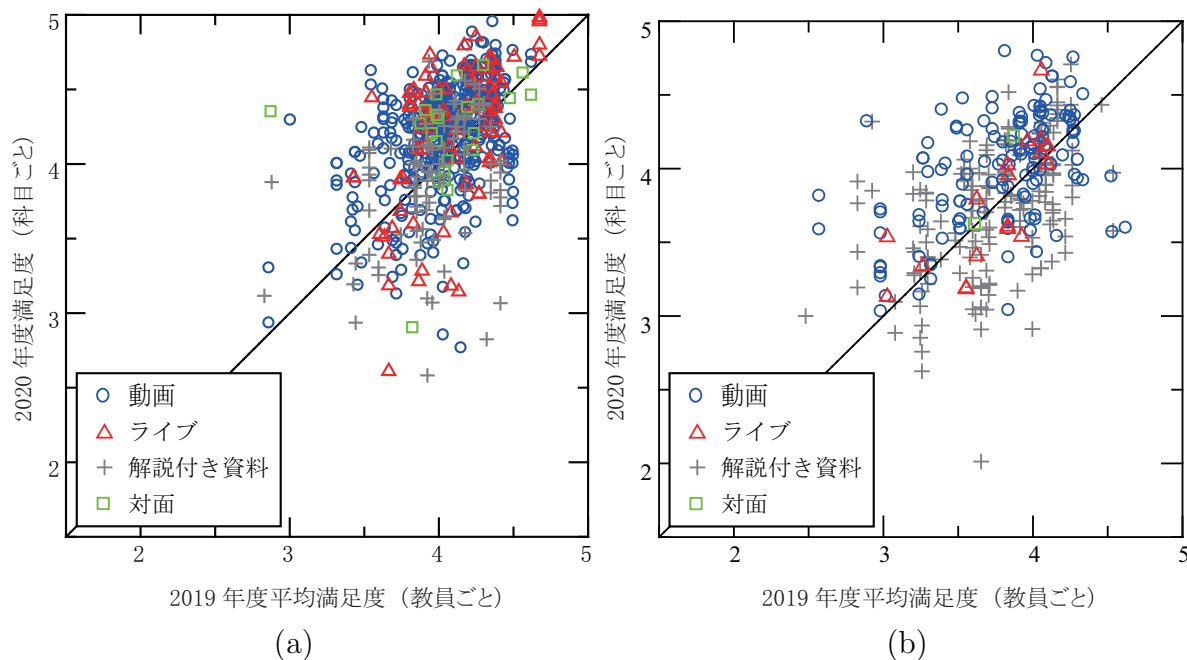


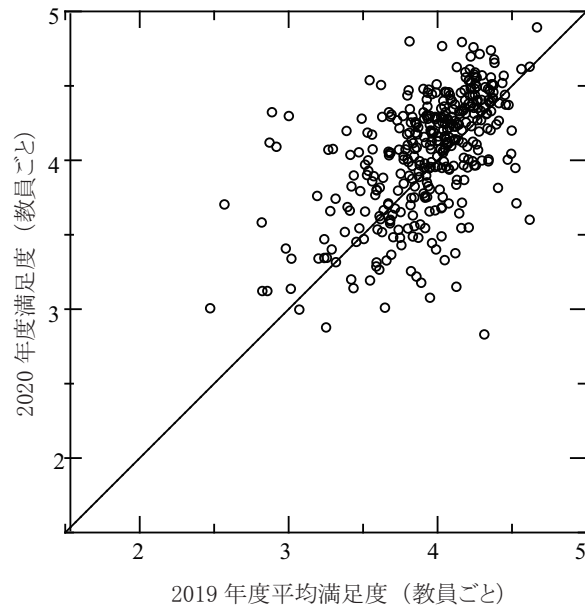
図 4: 2019 年度満足度（教員ごと）と 2020 年度満足度（科目ごと）の関係。(a) 常勤, (b) 非常勤

のです。比較するためには、横軸も科目ごとの満足度にするべきですが、2020 年度は時間割が大きく変わり、科目担当者が変わった科目も例年より多かったため、横軸は教員ごとの満足度の平均値としました。しかしながら、満足度が高い教員はどの科目でも高く、低い教員はどの科目でも低い傾向にありますので、およその関係は見ることも考えられます。

図 4 の実線は原点を通り、傾き 1 の直線です。すなわち、この直線より上にある点は、2020 年度に満足度が上がった科目であり、下にある点は満足度が下がった科目です。また、上に行くほど満足度が高い科目と言えます。これを見ますと、2019 年度 3 以下だったものは、すべて 3 以上になっていることが確認できます。また、半分以上の科目が実線より上にあることも確認できます。多くの授業でオンライン授業にする際に、授業内容の見直しをした結果、改善につながった可能性が考えられます。一方で、幾つかの授業で、新たに 3 以下になったものがありました。新たに 3 以下になったものの授業形態は専任教員の担当授業においてはまちまちですが、非常勤教員の担当授業では、3 以下になったものの授業形態は、解説付き資料のものでした。ただし、これらの幾つかの新たに 3 以下になった科目を除けば、授業形態による大きな違いはないように見えます。

満足度が特に低かった学生の自由記述欄を見ますと、サポートが不十分であることに対しての不満が目にとまります。解説付き資料であっても、十分な質問対応など、学生への手厚いサポートをしていると学生は満足しますが、学生から見て教員が手を抜いているように見える場合には、学生は不満を感じ満足度が低くなるようです。学生へのサポート不足が、3 以下になった解説付き資料の原因だと考えられます。

最後に、2020 年度の満足度についても、教員ごとに平均をとり、縦軸を 2020 年度の科



(a)

(b)

図 5: 2019 年度満足度 (教員ごと) と 2020 年度満足度 (教員ごと) の関係

目ごとの満足度、横軸を教員ごとの 2019 年度前期の満足度の平均値とした散布図を描いたところ、図 5 のようになりました。図 4 と同様の結果ですが、これを見ても、2019 年度に対面授業で満足度が高かった教員の授業が、オンラインでも満足度が高い傾向にあると言えるでしょう。ただし、オンラインに変わったことで、満足度が大きく上がった教員がいます。そのような変化が生じた原因を調べることが、授業改善のヒントになるかもしれません。

5 まとめ

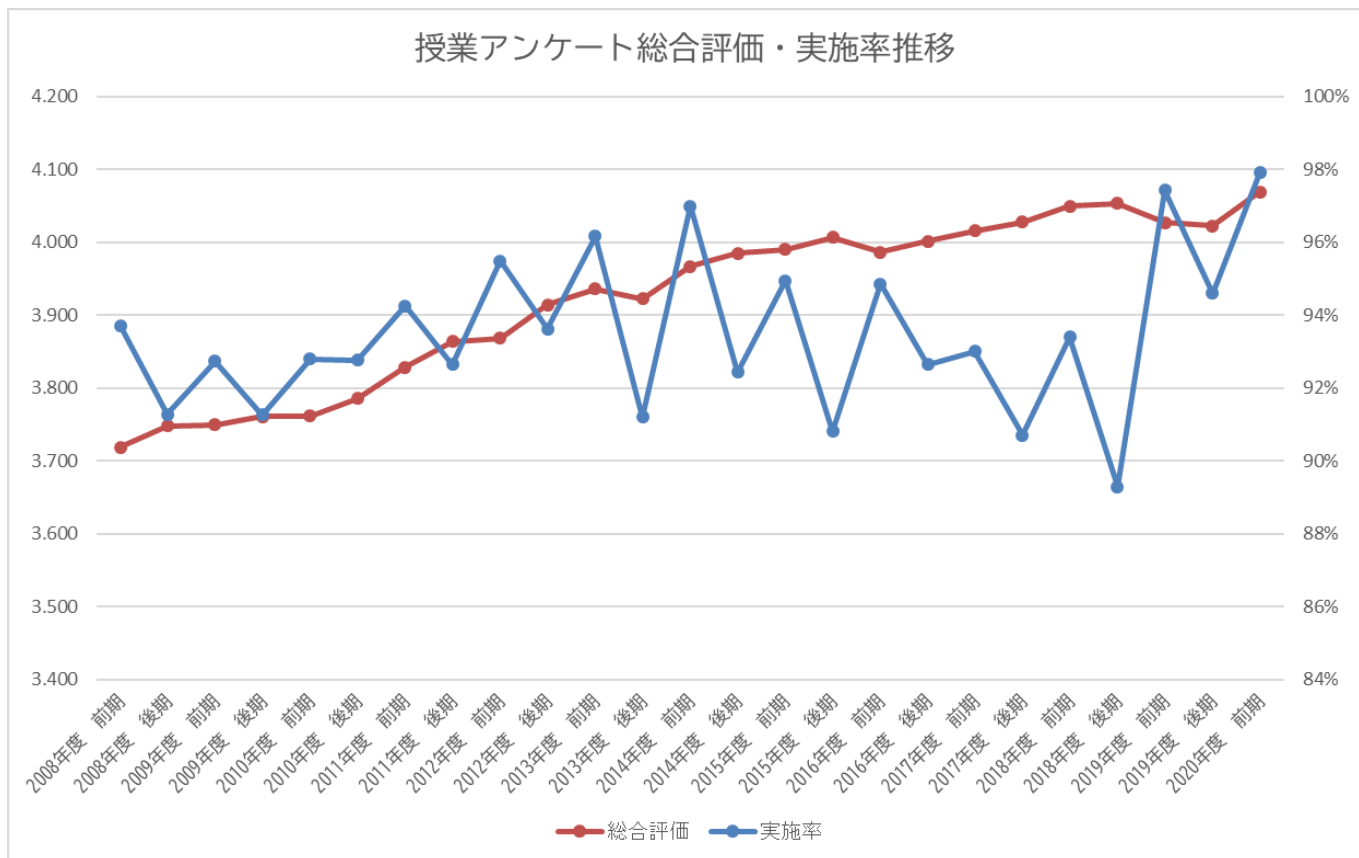
2020 年度前期の授業アンケートの結果を見ますと、オンライン授業は学生から好意的に受け取られたといえるでしょう。理由はいろいろ考えられ、授業アンケートだけからは明確なことは言えませんが、1つは授業のオンライン化にあたり、大幅な授業の見直しが行われ、授業内容自体が良くなったということがあのではないのでしょうか。もう1つの理由として、学生の学習時間が増え、それが学生の授業内容の理解につながり、学生が満足したということもあるかもしれません。これからオンライン授業から対面授業へと移っていきますが、オンラインで満足度が上がった授業は、対面授業においてもオンライン授業で良くなった所を活かすことでよりよい授業になると考えられます。

また、今回の分析では、オンライン授業の満足度への影響を調べました。その結果、満足度は授業形態による大きな違いはほとんどなく、2019 年度に満足度が高かった教員はオンラインでも満足度が高く、低かった教員は満足度が低い傾向にあることがわかりました。特に満足度が低かった科目を見ると、サポートが不十分であることに対する不満が目にとまりました。満足度が低い授業においては、学生へのサポートをより手厚くするな

どの対応をしていくと満足度が上がると考えられます。

最後に、FD 委員会では、より有益な情報が得られるようこれからもアンケートの分析やアンケートの改善を行っていかうと考えています。引き続き、授業アンケートをはじめとする FD 活動への御協力をよろしく申し上げます。

参考資料



■授業アンケート評価点推移 (2008年前期～2020年前期)

	実施率	総合評価		実施率	総合評価
2008年度 前期	93.7%	3.718	2015年度 前期	94.9%	3.990
2008年度 後期	91.3%	3.748	2015年度 後期	90.8%	4.006
2009年度 前期	92.7%	3.749	2016年度 前期	94.9%	3.986
2009年度 後期	91.3%	3.761	2016年度 後期	92.6%	4.001
2010年度 前期	92.8%	3.762	2017年度 前期	93.0%	4.015
2010年度 後期	92.8%	3.786	2017年度 後期	90.7%	4.028
2011年度 前期	94.3%	3.829	2018年度 前期	93.4%	4.049
2011年度 後期	92.6%	3.864	2018年度 後期	89.3%	4.053
2012年度 前期	95.5%	3.868	2019年度 前期	97.4%	4.027
2012年度 後期	93.6%	3.914	2019年度 後期	94.6%	4.022
2013年度 前期	96.2%	3.936	2020年度 前期	97.9%	4.069
2013年度 後期	91.2%	3.922			
2014年度 前期	97.0%	3.966			
2014年度 後期	92.4%	3.984			